

2 これまでの都市づくり

これからの都市づくりの方向性を定めるに当たって、ここでは、開拓期、戦前、戦後、政令指定都市移行後、都市計画マスタープラン（平成16年）策定後の5つの区分について、これまでの都市づくりを整理しました。

（1）開拓期の都市づくり

明治2年（1869年）～明治32年（1899年）

北海道開拓の拠点都市として、国による新たな都市づくりがはじめられ、都心部の原型や周辺都市間、衛星村落間を結ぶ道路が形成されました。

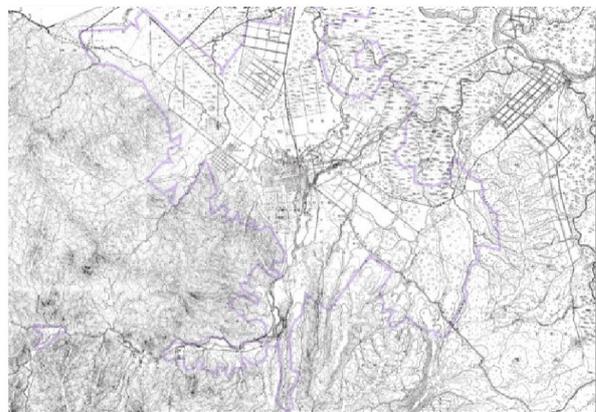


図 2-1 明治 29 年（1896 年）の札幌の市街地
資料：（財）日本地図センター「地図で見る札幌の変遷」

（2）戦前の都市づくり

明治 32 年（1899 年）～昭和 20 年（1945 年）

北海道の中心都市へと成長していく中、公共交通機関などの整備が進みました。

特に大正 12 年（1923 年）の旧都市計画法の適用以降は、さまざまな都市基盤が整備されてきました。

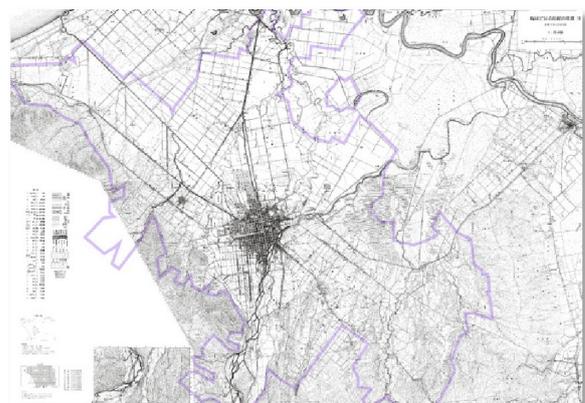


図 2-2 大正 5 年（1916 年）の札幌の市街地
資料：（財）日本地図センター「地図で見る札幌の変遷」

（3）戦後の都市づくり

昭和 20 年（1945 年）～昭和 47 年（1972 年）

人口や産業の集中が急速に進んだこの時代には、これに対応した土地区画整理事業などが積極的に進められました。

中でも、昭和 47 年（1972 年）開催の冬季オリンピックの招致が決定したことは、地下鉄南北線の開通をはじめ、都市基盤の整備に一層の拍車をかけました。

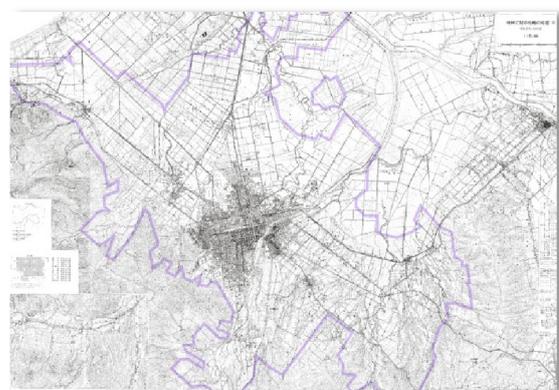


図 2-3 昭和 25 年（1950 年）の札幌の市街地
資料：（財）日本地図センター「地図で見る札幌の変遷」

(4) 政令指定都市移行後の都市づくり 昭和47年(1972年)～平成16年(2004年)

人口や産業が集中する都市化の進展が続く中、新たな都市計画制度を運用し、計画的な市街地の整備・拡大を進めました。

特に市街地の郊外部には、この時代に入って計画的に整備された戸建住宅主体の街並みが広がっています。

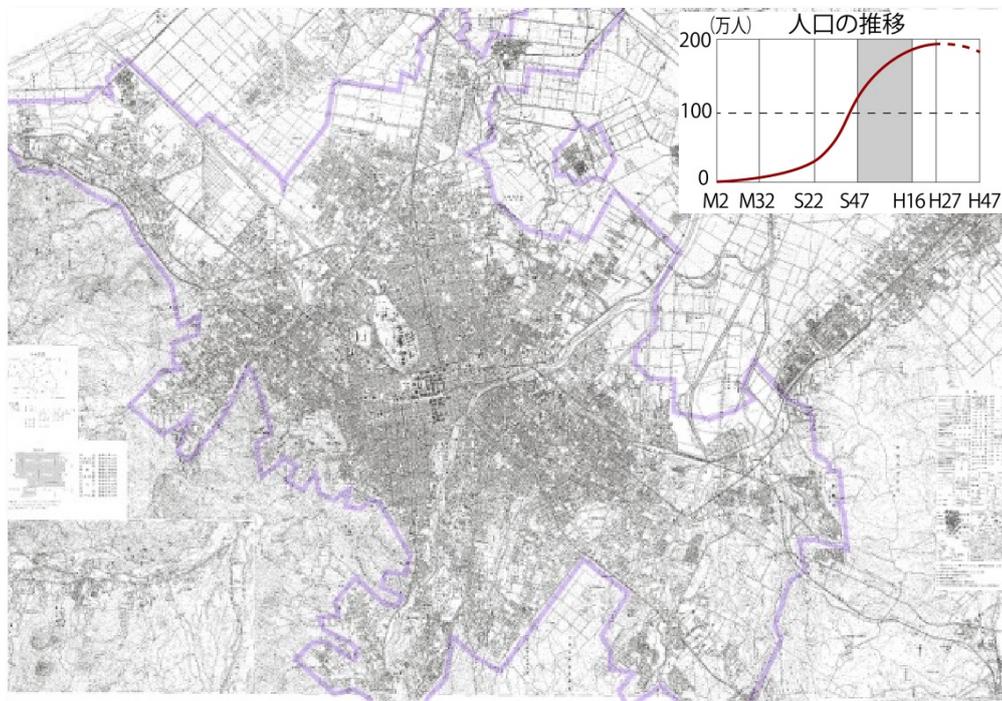


図2-4 昭和50年(1975年)の札幌の市街地

資料：(財)日本地図センター「地図で見る札幌の変遷」

時代背景

- ・ オリンピック開催
：昭和47年(1972年)
- ・ 政令指定都市への移行
：昭和47年(1972年)
- ・ 人口増加の持続

都市づくりの主要課題

市街地拡大の計画的コントロール

主な取組

- ・ 無秩序な市街地拡大の抑制
→区域区分(線引き)の実施：昭和45年(1970年)～
- ・ 良好な民間開発の誘導
→札幌市宅地開発要綱：昭和48年(1973年)～
→札幌市住区整備基本計画：昭和48年(1973年)～
→札幌市東部地域開発基本計画：昭和49年(1974年)～

(5) 札幌市都市計画マスタープラン（平成16年）策定後の都市づくり

平成16年（2004年）～

都市計画マスタープランを平成16年（2004年）に策定してからは、緩やかに増加していた人口を当時の市街化区域内に誘導しており、新たな市街地を整備するための市街化区域の拡大は行っていません。

また、平成18年（2006年）には、秩序ある街並み形成を図るため、建物の高さの最高限度を定めた高度地区を、市内のほぼ全域に決めました。

さらに、市街地内の充実、特に地域の特性を踏まえたまちづくりを進めるため、地域ごとのまちづくり計画策定や再開発の事業化に向けた取組も順次進めてきました。

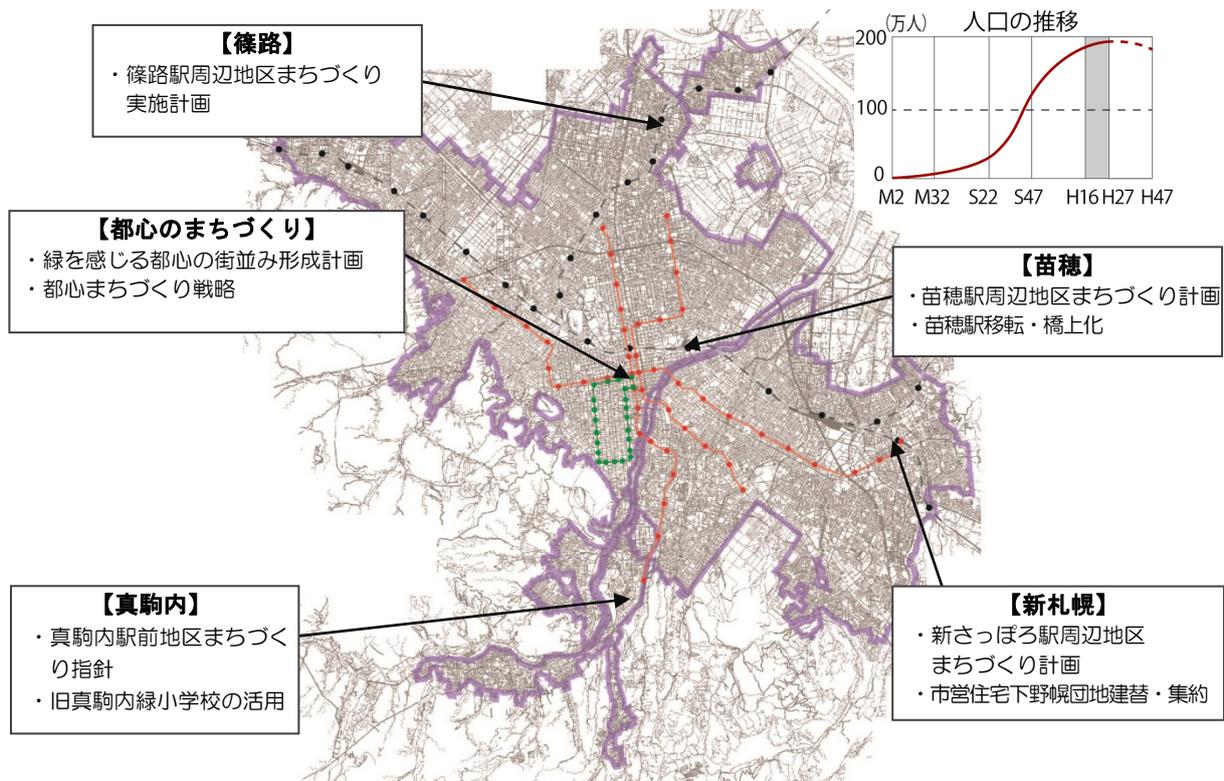


図2-5 平成27年（2015年）の札幌の市街地

資料：札幌市



図2-6 市街化区域面積の変遷

資料：札幌市（平成26年）